

## 「小・中学校等における起業体験推進事業」実施計画書

<b>1. 実施主体</b>	
本事業を受託する教育委員会	京都市教育委員会
<b>2. 現状及び課題</b>	
学校及び地域におけるキャリア教育の現状	<p>京都市では、平成18年度から京都経済界や学識経験者等と連携した「21世紀型教育コンテンツ開発委員会」を設置し、総合的・体系的にキャリア教育に関連するより良い教育環境の提供に努めてきている。</p> <p>主な取組として、約3,700の事業所の協力を得て、すべての中学2年生が職場体験を行う事業や、小学校跡地を活用した「京都まなびの街生き方探究館」において、公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本の学習プログラムを活用し、地元企業と連携したモノづくり体験学習(小学校4～6年生対象)、銀行や商店などからなる「街」を再現し、消費者や働く人の立場を学ぶ体験学習プログラム(スチューデントシティ学習、小学校5年生対象)、経済・金融について学ぶ体験学習プログラム(ファイナンスパーク学習、中学校1年生対象)を全校で実施することで、児童生徒の職業観・勤労観の育成をするキャリア教育を推進してきた。</p> <p>○大宅小学校 将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育成するため、4年生では福祉の視点から「次世代の担い手育成事業」に参加し、ポスターセッションやふれあいトークを実施することで、保護者や地域に取組を発信している。5年生ではスチューデントシティ学習を実施している。6年生ではNPO法人アントレプレナーシップ開発センターの協力を得て、「起業家教育」を展開し、手作りできるエコ商品を見童が開発・制作し、商業施設で開催される仮装企業の実践見本市「トレードフェア」に出展する中で、取組内容について発表したり、商品紹介のチラシを配布したりするなどの活動を展開している。</p> <p>○修学院中学校 NPO法人アントレプレナーシップ開発センターの協力を得て、平成14年度年から「起業家教育」を導入している。1年生では地域活性化の提案、2年生では地域の商店街と連携して、生徒が手作りした商品や店舗の人と共同開発した菓子販売等を行い、3年生では修学旅行で訪れた町の商店街を見学し、地元商店街との違いなどを比較・探究し、発表する取組を展開している。自分たちのアイデアが商品や企画となり、その売り上げが募金活動等で誰かの役に立っているという自己有用感を育む活動として、生徒だけでなく地域にもアントレプレナーの活動は身近なものになっている。</p>
学校及び地域におけるキャリア教育に関する課題	<p>パッケージ化された学習プログラムを小・中学校で導入したことにより、キャリア教育への理解や指導方法等が教員間で共有されるとともに、地元企業や商店街等との連携が強化された。一方で、多様な児童生徒の実態等から、一斉活動やテーマ設定、また総合的な学習の時間の減少に伴う学校の独自プログラムの実践が難しくなるなどの課題が生じている。さらに、既存プログラムが提供されていない学年においては、キャリア教育そのものの実践が遅れがちな状況である。</p>
<b>3. 委託内容に対する取組</b>	
実施する学校	京都市立大宅小学校、京都市立修学院中学校
目標	<p>「起業家教育」の実践を通じて、働くことは必ずしも企業や役所等に雇われて給料をもらうことだけでなく、自ら起業したり、社会貢献したりする選択肢があることを理解し、多様な職業観を培う。また、創造力・発想力、チームで働く力、リーダーシップ・サポーターシップ、コミュニケーション能力、情報収集・分析能力、表現力等、起業家として求められる基礎的な資質・能力の向上を図るとともに、自ら課題を見つけ、その解決に向けて、主体的に行動する意欲や態度(起業家的行動能力)を培うことを目標とする。</p>

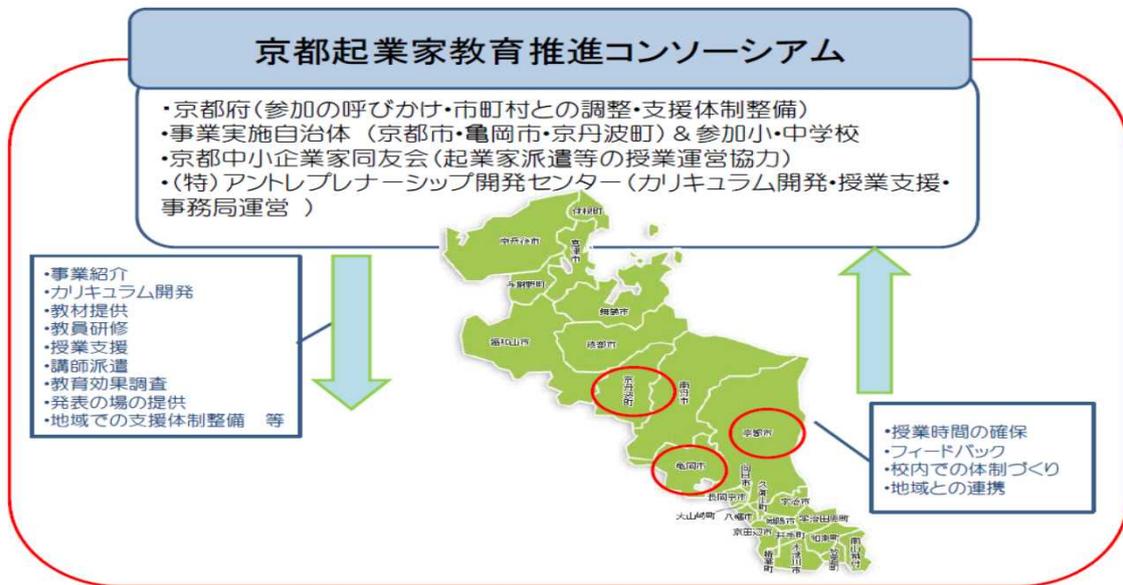
取組計画

○大宅小学校  
 昨年度、6年生(4クラス)を中心に、「起業家教育」を導入し、NPO法人アントレプレナーシップ開発センター等の協力のもと、「起業家教育」の意義や目的を指導者間で共有し、児童によるエコ商品の開発・作成、トレードフェアへの出展などに取り組んだ。活動に際しては、タブレットを活用する中で、オンラインの教育プログラムサイト「Youth Enterprise」を用いたが、初めての活動でもあり、タブレットの十分な活用ができなかった面があった。1年足らずの実践であるが、平成28年度は、基本的に昨年度の取組をベースとして、その活動から得た経験や知見を活用した取組を展開する。具体的に、年間30時間程度において、引き続き、NPO法人アントレプレナーシップ開発センターの協力を得て、改めて指導者向け研修で「起業家教育」の意義や目的を共有することに加え、タブレット活用の研修も計画的に行い、児童によるエコ商品の開発・作成、トレードフェアへの出展など、さらに充実した実践を定着させる。また、その成果を保護者参観日等で発表し、家庭や地域と共有を図るとともに、他の小学校でも広く活用できるモデル事業を構築する。

○修学院中学校  
 平成14年度から、NPO法人アントレプレナーシップ開発センター等の指導を受ける中、地元商店街等と連携した起業家教育に先駆的に取り組んできたが、総合的な学習の時間の減少や担当教員の異動等から、長年続けていた実践内容を昨年度から徐々に改編している。1年生での地域調べ学習や校外学習、2年生での商品・サービスの開発・制作・広報・販売等の活動を行い、3年生で発表活動を実施する。地域との連携を保ちながら、中学校での限られた時間内で、教員研修も含め、より教育効果の高い実践に取り組み、他の中学校に普及させていきたい。

①実施体制(図で示すなどわかりやすく記載すること)

○京都市をはじめ京都府、京都府内の自治体(京都市以外)や、学校、京都中小企業家同友会(起業家や連携企業等の紹介)、NPO法人アントレプレナーシップ開発センター(カリキュラム開発・教員研修・教材提供等)等が連携して結成する「京都起業家教育推進コンソーシアム」において、「京都起業家教育推進事業」として、地域と連携しながら継続的・発展的に取り組む。また、互いの実践を共有することで、より教育効果の高い授業づくりを目指すとともに、起業家教育の要素をキャリア教育に普及させていく。



○大宅小学校、修学院中学校とともに、NPO法人アントレプレナーシップ開発センターの支援を受けながら、校内の学習指導部、総合的な学習の時間主任、キャリア教育主任、小中一貫教育主任等、及び各学年の担当者による体制を構築するとともに、地域や専門家、保護者等の協力を得ながら活動を進める。

②授業をサポートする団体(予定でも可)

NPO法人アントレプレナーシップ開発センター、京都中小企業家同友会、モデル実践校との連携では地元商店街や地域の起業家・NPO・企業等

### ③取組内容

大宅小学校、修学院中学校とも、総合的な学習の時間を中心に、地域学習や発表・モノづくりなどは、国語科、社会科、技術・家庭科等の関連する単元とつながりを持たせながら、年間を通じて系統的に展開する。

#### ○大宅小学校

主に6年生でのキャリア教育を充実させるため、NPOアントレプレナーシップ開発センターの協力を得て、年30時間程度「起業家教育」を取り入れ、総合的な学習の時間を活用して、6月から取り組む。

- ①児童が校内で模擬会社を設立する。
- ②設立後、NPO法人環境市民の方に環境に優しい商品やそれらの広報の仕方について指導を受ける。
- ③児童自らが手作りできるエコ商品考え、制作する。
- ④制作した商品について、商業施設で開催される仮装企業の実践見本市「トレードフェア」に出展する。
- ⑤取組内容についての発表や商品紹介のチラシの配布、販売等の活動を行う。
- ⑥1月の保護者参観日に全クラス一斉の発表会を行い、学びを地域・保護者と共有する。

上記①～⑤の活動に際しては、タブレットを活用し、オンラインの教育プログラムサイト「Youth Enterprise」を用いる。この教材を用いることで、学習者である児童自身の主体的な活動を促すとともに、毎回の活動内容をまとめ、写真入りで発信したり、開発商品を紹介したりして、保護者や地域、一般の方から「応援したい」や「買いたい」ボタンをクリックしてもらい、第三者評価を得る。第三者から得た評価や助言の内容を集約・分析し、活動全体の成果や課題を可視化することで、次年度以降の活動内容の精選と充実に生かしていく。

また、4年～6年生を対象に、福祉施設を訪問し、そこで働く方との交流を通して仕事・職業観を学んだり、職場体験、社会人等を招いた講演会等を実施する。

- ・社会科で得た調査研究のスキルを生かして、情報を集め、具体的な考察やまとめ方を工夫させる。
- ・図画工作科で得た材料の特徴を捉える力や発想力、造形力を生かし、エコ商品の開発を工夫させる。

#### ○修学院中学校

キャリア教育を「将来設計学習」と位置づけ、1年生時に地元商店街を見学、2年生時にNPOアントレプレナーシップ開発センターと連携した取組、3年生時に修学旅行先の商店街を見学し、商店街との違いを比較・探究し発表する活動を展開する。

##### <1年生>

- ①京都市内の商店街の調査(NPOの協力を得て地域調査の方法や分析方法を事前学習した後、校外学習)
  - ②地域づくりと商店街の関係性をより深く考えるため、外部講師を招いての講演を実施
  - ③上記①②を踏まえ、修学院地域の産業について考える。地域調査と分析、よりよい地域にするための提案
  - ④これまでの学習をまとめたレポート作成、学級内プレゼンテーション
  - ⑤「総合的な学習の時間」発表会にて1年間の取組内容と成果を発表
- ・社会科で学んだ調査研究のスキルを生かし、情報を集め、具体的な考察やまとめ方を工夫させる。
  - ・英語科、国語科におけるプレゼンテーション・スピーチのスキルを生かし、発表の仕方を工夫させる。
  - ・技術・家庭科で学んだコンピュータのスキルを生かし、効率よく必要な情報を収集させる。

##### <2年生>

- ①1年生時の成果を踏まえ、「地域を活性化するってどういうこと？」をテーマに外部講師による講演を実施
  - ②地元の一乗寺商店街で販売商品の希望調査、ターゲット顧客とニーズ把握調査を実施
  - ③販売協力店への訪問(店主とのコミュニケーションを図り、礼儀や仕事の厳しさ等を学ぶ)
  - ④商品の宣伝準備、商品販売の売上計画等を考える(グループワーク)
  - ⑤商品製作、包装、デコレーション、販売準備、一乗寺商店街での出店販売・企画・広報活動(グループワーク)
  - ⑥販売活動の振り返りと礼状作成、売上金の送付(被災地への募金)
  - ⑦活動の成果とまとめの報告会
  - ⑧「総合的な学習の時間」発表会にて1年間の取組内容と成果を発表
- ・社会科で学んだ調査研究のスキルを生かし、情報を集め、具体的な考察やまとめ方を工夫させる。
  - ・美術科のデザイン学習で得た視覚表現のスキルを生かし、商品制作・販売活動の工夫をさせる。

##### <3年生>

修学旅行先(27年度は沖縄県)の商店街を見学・訪問し、店主の方々へのインタビュー等を行う。修学旅行終了後、地域活性化と産業の関わりや地域特有の課題、その解決に向けた工夫等について、NPOの助言等を得て、地元商店街との比較・探究等を行い、発表活動を行う。

## (2)域内の学校に普及するための取組

### ①域内の学校への普及方法について

年度当初に希望校を募り、NPO法人アントレプレナーシップ開発センターと連携し、起業家教育の指導者研修会を開催する。起業家教育の意義や実践効果等について理解を深めたうえで、各校で導入しやすいカリキュラム開発のワークショップを行う。その後、大宅小学校・修学院中学校での取組実践と、その成果を共有するための発表・報告会を開催する。年度末には、次年度に向けて起業家教育の実践を希望する学校を募り、実施に向けた授業計画の開発や地域団体との連携・講師派遣の調整等を支援するワークショップを開催することで、次年度の計画に向けた円滑な移行を支援する。

## ②地域・保護者等への周知方法について

実践内容については、各校のHPで紹介するとともに、NPO法人アントレプレナーシップ開発センターが提供する起業家教育のプラットフォームサイトである「Youth Enterprise」での発信、地元の商店街で販売実践、仮想企業の実践見本市である「トレードフェア」に出展しての発表や販売活動に加え、他校の教員だけでなく、広く地域や保護者の方に参画していただく発表会等の機会を設ける。また、実践内容をまとめた報告冊子や取組内容の広報発表、市内小中学生と保護者に配布する広報紙等にも掲載する予定である。

## (3)その他の取組

## 4. スケジュール

実施時期	実施内容
4月	起業家教育実践に興味ある学校への研修会の案内
5月	モデル授業校 2校の教員研修会の開催
6月～11月末	モデル授業校 2校の授業・活動の実施
8月初旬	市内の希望教員対象の起業家教育基礎研修会の開催
9月初旬	モデル授業校(修学院中学校2年生)の商店街での販売実践
11月末	モデル授業校(大宅小学校)のトレードフェアへの出展
12月中旬～1月	モデル授業の発表と市内の希望校対象の起業家教育導入支援研修会の開催
2月	実践報告のまとめと公開

## 5. 取組により見込まれる成果とその検証方法

起業家教育の実践や起業家による講演等を通じて、児童生徒が多様な職業観や、社会人としての基礎能力、自ら主体的に課題を発見し、その解決に向けて行動する意欲や態度(起業家的行動能力)の基盤を培う。また、地域の活性化に果たす産業や起業家の役割について理解し、起業や事業(ビジネス)を行うことへの興味だけでなく、起業家や事業を実践する人々への志や努力等を知ることによって尊敬の気持ちを持ち、将来、自ら新しいことにチャレンジする意欲や、地域貢献や起業家を応援するなど長期的な人材育成や社会環境づくりへの効果も期待できる。

大宅小学校・修学院中学校では、上記のような効果について、起業家教育の専門団体であるNPO法人アントレプレナーシップ開発センターと連携して、行動観察やアンケート調査等を用いて検証する予定である。